

いずみさの昔と今 第360回

工夫がいろいろ 正月引札

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさのでは、企画展「正月引札・広告印刷物に見る佐野の商店」を開催中です。今回は「正月引札」について詳しく解説します。

正月引札（正月用引札とも言う）は明治20年代後半に入ってから、大量に印刷されました。正月引札の特徴は、鮮やかな色彩と、斬新な絵柄です。絵柄には商売繁盛を願う、恵比寿・大黒・布袋・福助などの福神や、干支・鶴亀・松竹梅・「一富士二鷹三茄子」などのおめでたいテーマが選ばれた一方で、洋傘、山高帽、ヴァイオリンを弾く女性、汽車や洋船といった時代を反映する絵柄も描かれました。

正月引札の絵柄のなかには、浮世絵師が元絵を描いたものがあります。引札に絵師の落款があることから、関わった絵師を知ることが出来ます。川崎巨泉や金森観陽といった、のちに日本画家の大家となる人物が、若手時代に引札の元絵に携わっていることもありましたが、一方で、有名な絵師の作品をそのまま用いたもの、絵柄の雰囲気をも

せて刷ったものもあります。展示資料には「応挙」と落款がある引札がありますが、これは円山応挙ふうに描かれたもので、実際に応挙が手がけたものではないようです。

正月引札は、絵柄の部分と「所判」と呼ばれる商売情報の部分に大きく分けることができます。絵柄の部分は大手引札印刷業者が刷り、所判の部分は地元印刷業者が刷りました。大手引札印刷業者は、絵柄だけを刷った引札をまとめた見本帳を作り、全国各地の地元印刷業者に販売します。地元印刷業者はその見本帳を持って各商店を回り、希望する絵柄と枚数を取りまとめ、大手業者へ発注します。そして絵柄が刷られた引札に、地元業者が所判を刷り入れて、商店に納品しました。このように分業体制を取ったことで、大手業者はまとまった注文を受けることができ、地元業者は所判の印刷だけで済ませることができるといって、両者にとって都合がよい方法でした。

今回展示する引札は主に、泉佐野駅西側にあった旧車町商店

街や旧大將軍町商店街でかつて営業していた商店のもので、隅に「玄順商店」「魚谷商店」など地元印刷業者の判子が押されているものがあります。この判子は、前述のような正月引札の流通システムの証拠となるものです。また、玄順商店が配った引札も展示しています。玄順商店は紙や帳簿類のほか、活版印刷も行っていたので、自分の所で商売情報を印刷したのでしょう。



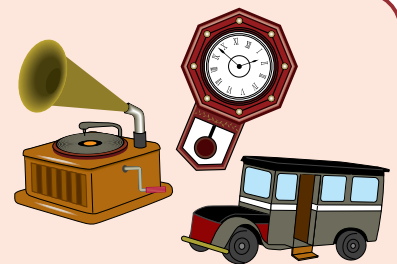
▲玄順商店の引札

レイクアルスタープラザ・
カワサキ歴史館いずみさの
☎469-7140 Fax469-7141
休館日 月曜日、毎月最終木曜日（いずれも祝日の場合は開館し、その翌日が休館）
開館時間
午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで）
入館料 無料

泉佐野 レトロ タイムスリップ

泉佐野市の昭和頃の懐かしい写真を紹介します。

⑱駅シリーズ JR 長滝駅



▲昭和63年の長滝駅。長滝駅は昭和5年に阪和電気鉄道の駅として開設されました。駅舎は開業時のものです。



▲現在の長滝駅の様子

▼昭和50年ごろの長滝駅の貨物駅舎の写真。かつて長滝駅には貨物専用の駅舎がありましたが、現存しません。



泉佐野市の懐かしい写真は「泉佐野市デジタルアーカイブ (<https://adeac.jp/izumisano-city/top/>)」でも公開中！